

2005年3月1日
東日本旅客鉄道株式会社

信濃川発電所の復旧状況について

信濃川発電所（千手発電所、小千谷発電所、新小千谷発電所）は2004年10月23日の新潟県中越地震により被害を受け発電を停止しました。復旧に際しては、「信濃川発電所復旧工事技術専門委員会」（委員長：東京工業大学 大町達夫教授）を設置、審議した上で、被害状況及び復旧方針が確定した設備から復旧に着手し、放水路・護岸などの土木設備及び電気設備等の復旧工事を進めております。

これまで、一部設備の復旧が完了し、12月18日より流雪溝用水のための取水を開始し、2月1日より千手発電所で調整池を使用しない一部発電を開始しております。また、小千谷発電所についても一部発電を再開するため復旧工事を鋭意進めており、これにより関係する灌漑用水の取水も可能となる見通しです。

これまで未着手であった各発電所の調整池（浅河原調整池、山本調整池、新山本調整池）の復旧工事についても、委員会での審議により復旧計画（別紙）がまとまりましたので、今後、地元関係者等との調整を図ったうえで、復旧工事に早期着手することとします。

【調整池復旧の考え方】

詳細な調査の結果、調整池堤体は表面にクラックまたはすべりが発生した程度の比較的軽微な損傷であることが判明したことから、堤体の一部損傷した部分を撤去し、再度、盛立てることにより復旧します。

各調整池の復旧に合わせて、調整池等に地震計等の計測機器、非常用発電機等の安全管理設備を増強し、信濃川発電所の安全に関する管理レベルの更なる向上を図ります。

【復旧費総額および調整池に係わる工事着手時期】

復旧費総額：約230億円

調整池に係わる工事着手時期：雪解け時を待って本格復旧工事に着手予定


【当面の発電見通し】

現在、千手発電所において調整池を使用しない一部発電（最大出力約6万kw）を行っておりますが、小千谷発電所についても必要な補修が完了する見通しであることから、4月中旬より調整池を使用しない一部発電（最大出力約5万kw）を開始する予定です。

各調整池の復旧計画

【別紙】

(堤体の一部損傷した部分(心壁は損傷なし)を撤去し、再盛立を行う)

【凡例】 施工部分 被災後 復旧後


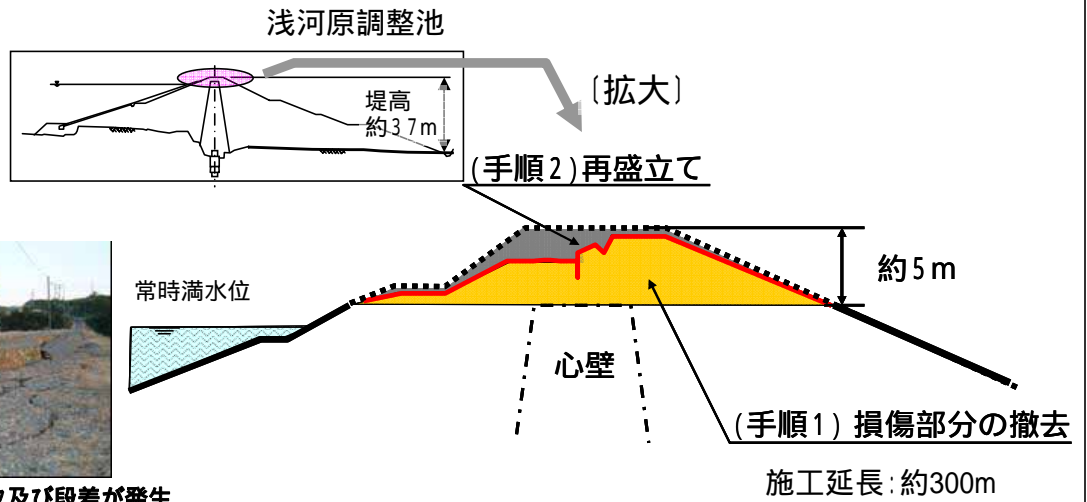
【千手発電所】



浅河原調整池 全景



被害状況: 堤体天端にクラック及び段差が発生



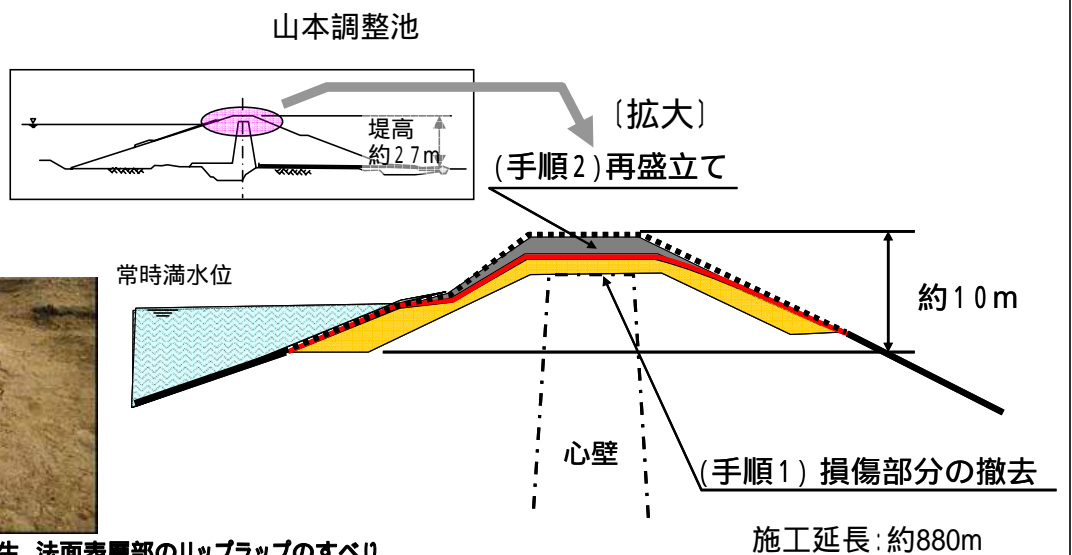
【小千谷発電所】



山本調整池 全景



被害状況: 堤体天端にクラックが発生。法面表層部のリップラップのすべり



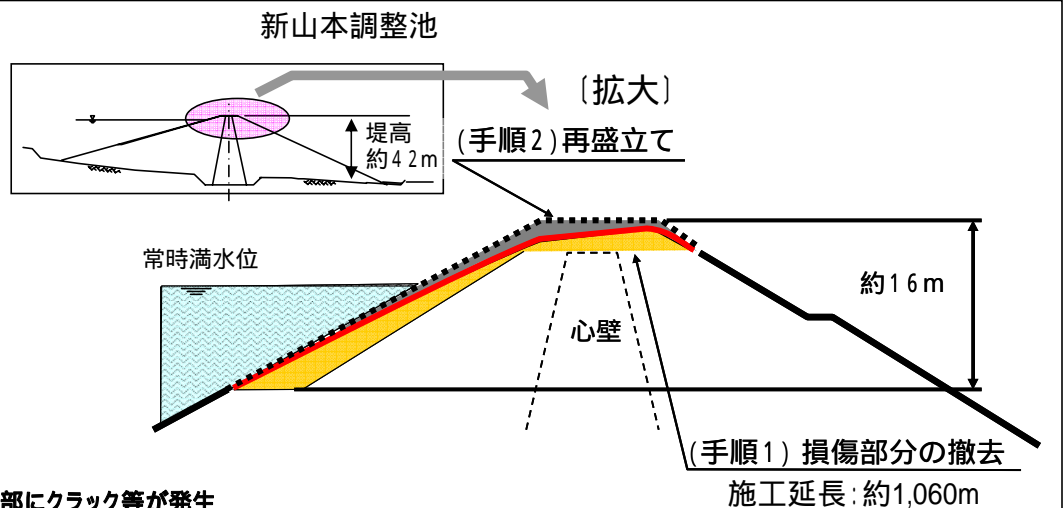
【新小千谷発電所】



新山本調整池 全景



被害状況: 堤体の沈下、法面表層部にクラック等が発生




【心壁】: 水を下流側へ通さないように作られた土の壁、【リップラップ】: 堤体法面に設置された玉石、【常時満水位】: 調整池使用時の最大水位

信濃川発電所被災状況（2004年11月現在）

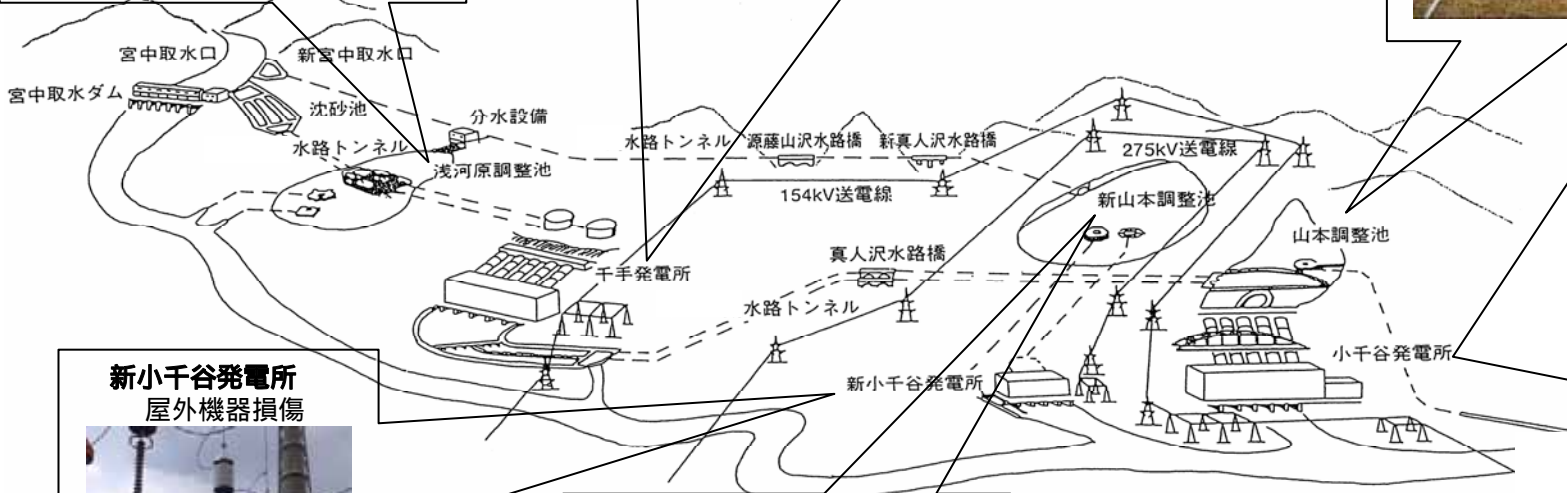
浅河原調整池
堤体天端にクラック及び段差が発生



千手発電所
屋外機器損傷



山本調整池
堤体天端にクラックが発生



新小千谷発電所
屋外機器損傷



新山本調整池
法面表層部にクラック等が発生



送電線
鉄塔基礎付近法面地滑り



小千谷発電所
屋内機器損傷
放水路護岸損傷

